

■ ご挨拶 ■

第78回日本医学放射線学会総会を開催するにあたって

第78回日本医学放射線学会総会 会長
熊本大学大学院生命科学研究部 放射線診断学分野 教授
山下 康行



第78回日本医学放射線学会総会を開催するにあたって、一言ご挨拶申し上げます。

本学会は、2019年4月11日(木)から14日(日)迄の4日間、パシフィコ横浜にて、第75回日本放射線技術学会総会学術大会、第117回日本医学物理学会学術大会の学術3団体の大会および国際医用画像総合展 (ITEM 2019)との合同で、JRC (Japan Radiology Congress) 2019として開催いたします。JRCは、放射線科医のみならず、他領域の医師、診療放射線技師、物理学者、その他、放射線に関連する人々が一堂に会し多方面から最新の研究成果を発表し討論する場であり、今回も2万人を超える入場者が見込まれます。この中であって日本医学放射線学会総会は、毎年春に開催される放射線医学全般を網羅する学術集会で、約5000名におよぶ全国の放射線科医が参加します。毎回優れた研究成果が発表されるため、社会の関心を集め、高い評価を得ています。

放射線医学は医療機器の発展とともに画像診断やIVR、放射線治療の学問や技術も飛躍的に向上し、医学への貢献も目覚ましいものがありました。この放射線医学隆盛の理由の一つは常々、我々が時代の先頭に立って、革新的であり続けたからではないかと思えます。そしてこの放射線医学においては今後も発展が期待されており、時代の最先端を走り続けるには常に我々は革新的であらねばならないと考えております。

一方、技術の進歩は時として我々の最終的な目標は“患者さんの幸福につながる”であることを忘れさせてしまいがちです。“本当に患者さんの役に立つことは何か”と言うことを常に考える、日々の読影を中心とした診療においても“画像の向こうには患者さんがいる”ことを忘れずに取り組むことが何よりも大事であると思えます。このような姿勢がなければ今後の放射線医学の発展はあり得ません。このような私からの若い世代の放射線科医へのメッセージとして今回の主題を“革新的な放射線医学を－患者に寄り添って－”(Innovative Radiology close to the Patients)と致しました。JRC2019では、このような主題(テーマ)に沿ったプログラムを企画し、多くの参加者をお迎えしたいと思います。

JRC2019の開会式では、主催者を代表して3学会の大会長ならびにITEMの会長から各団体の今後の将来構想や方向性に関する講演を予定しています。引き続いて行われる3学会の合同の特別講演では、著名なAI研究者である東京大学大学院工学系研究科の松尾 豊先生をお招きし「人工知能の進展と医療・ヘルスケアにおける可能性」についてお話しをしていただく予定です。

3学会の合同シンポジウムでは次の3つを予定しています。

1. Value-based Imaging：AI時代を見据えて
2. 人工知能(AI)を用いた革新的な放射線医学
3. 機能性画像と放射線治療

いずれも来たるべくAI時代を見据えた新しい放射線医療を予感させる未来志向のシンポジウムになると思います。また、今年は3学会の合同特別企画としてハーバーラウンジにおいてディープラーニング ハンズオンセミナーを3日間連続で開催いたします。

JRSとしてのシンポジウムは12の企画をしました。いずれもメインテーマに沿った学会員並びに関連領域の皆様にとって非常に興味深いホットなトピックスかと思えます。また、JJR編集部からの教育講演、JCRアワー、AI企画・実践講座、男女共同参画・ダイバーシティ推進関連講演会なども企画しております。その他、QIBAのシンポジウムや韓国放射線学会(KCR)とのジョイントシンポジウム、AOSORとのジョイントセッションなど、国際的なシンポジウムも多数予定しております。

教育講演や必須講習会は専門医更新のための単位取得においてポイント化され、重要性が非常に高くなっており、多くの聴衆が予想されますが、できるだけ混雑を緩和する方策を色々と練っております。一方、研修医対象のセミナーとして救急画像診断入門と放射線治療の実際を取り上げ、若いドクターに対して放射線科への関心を高めてもらいたいと考えております。

恒例のImage Interpretation Sessionは二名の我が国を代表する女性の放射線科医の司会のもと、九州の各大学で選んで頂いた選りすぐりの症例を全国の新進気鋭の放射線診断医に読影して頂きます。例年通り、土曜日の夕刻、メインホールにて画像診断の醍醐味を味わっていただければと思います。

学会で最も重要な一般演題にも今年も多数演題が寄せられております。ここでは最新の研究発表がなされ、ホットなディスカッションが予想されます。抄録集や発表スライドは原則英語になります。一般口演に先立って海外演者によるKey note lectureも多数企画しております。

日本医学放射線学会総会は、放射線医学全領域を網羅する学術集会であり、多分野から最新の研究成果や医学教育の報告のほか多数のシンポジウムが開催されます。また、日本国内のみならず、海外からの研究者も多く参加し、質の高い討論が行われます。今回の学会では学会の本来あるべき姿である学問に触れる機会をできるだけ多くしたつもりです。学会に参加されることで、日常診療に忙しい先生方も最新の知識を吸収できると同時に、未来の放射線医学について考える契機になると思います。多くの方々のご参加を心からお待ち申し上げます。春の横浜で皆様にお会いできるのを楽しみにしております。